

「おくのほそ道」～古典に学ぶ～

本単元で育成する資質・能力

将来に通用する基礎学力 課題発見・解決力

- 1 日 時 : 平成28年12月16日(金) 5校時
- 2 場 所 : 3年3組教室
- 3 学年・学級 : 第3学年3組
- 4 単 元 名 : 古典に学ぶ「おくのほそ道」

(1) 単 元 観

本単元は、中学校学習指導要領国語（平成20年、以下「指導要領」とする）第3学年「C読むこと」に基づき設定された。

C エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

中学校学習指導要領解説国語編（平成20年）には、『文章を読んで人間、社会、自然などについて考え』とは、様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせることである。このような学習から確かな思想が形成され、豊かな心情が養われ、人間としての成長が期待される。」とある。

松尾芭蕉による「おくのほそ道（奥の細道）」は、日本の紀行文学の最高傑作と言われ、その冒頭文は人口に膾炙している。俳句を織り交ぜた旅行記「俳諧紀行文」であり、韻文と散文が巧みに融合した文章である。「平泉」の部分には、藤原氏三代の栄華の跡と源義経の最期に思いを馳せ、実感した人間の営みのはかなさが、「夏草やつわものどもが夢の跡」の名句を詠むに至る過程を描く中で表現されている。このような文章を読み味わい、芭蕉の考え方や生き方、人生観を読み取ることによって、「指導要領」に示されている「人間」に対する自分の考えを深めることができると考える。

以上のことより、この単元を学習する意義は大きいと考える。

(2) 生徒観（調査結果からみる課題）

本学級の授業では、全体的に前向きに学習に取り組む生徒が多く、指名するとよく読んだり答えたりするが、自主的発表はほとんどない。ペアや班などのグループ活動は活発に行うが、人と交流しにくい生徒も数人いる。

平成28年度全国学力・学習状況調査によると、本校3年生の国語A・Bとも正答率は、全国平均・広島県平均を上回っている。しかし、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問い5問のうち、2問の正答率が全国及び広島県平均を大きく下回った。また、「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」問いの正答率が46.2%で、全国平均よりも3.0%低かった。そのため、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う力」「文章を読んで課題を見つけ、自分の言葉で書き換える力」をつけることを国語科の重点課題とした。今回の教材では、目的意識をもった読み取りと、場面や視点を変えてのリライト活動に取り組みさせる。

	国語A	国語B	話す・聞く	書く	読む	言語
本校	78.8	73.8	81.4	78.6	81.6	77.0
広島県	76.6	67.9	80.1	76.2	78.9	74.6
全国	75.6	66.5	78.9	73.7	78.6	73.9

(3) 指導観（指導改善のポイント）

この教材の学習においては、これまでの古典の学習を活かし、仮名遣いや文語文独特の表現の仕方に注意して繰り返し音読し、漢文調の簡潔でリズムカルな文体や、対句表現、縁語・掛詞の効果なども感覚的なリズム・響きとして味わわせたい。俳諧紀行文であるため、「俳句の世界」で学習した俳句の基礎知識（有季定型、切れ字、句切れ、表現技法）を活かして俳句の意味や内容ととらえて鑑賞するとともに、俳諧と地の文のかかわりについて考えて読むことが必要になってくる。既習事項や既に持っている知識と単元で学習する知識とを関連付けて読む力・資料集や書籍を活用して必要な情報を収集・整理する力は、将来に通用する基礎学力であると考え。

課題発見・解決力の育成という観点からは、文章をリライトさせるという手法を取り入れることによって、生徒に主体的な読みをさせたいと考えている。既存の知識・情報と新たな知識・情報を統合して、作者の価値観・人生観を自分の言葉で書き換え、表現する力を身につけさせたい。

指導にあたっては、本校の研究テーマに含まれる「ピア・サポート」を積極的に取り入れる。分析や表現の場面でのペアやグループでの協同学習を通して、互いに考えを深めさせたい。個人思考が難しい生徒も、教え合いや助け合い、相互評価の中で、スムーズに思考が深まるよう工夫していく。

5 単元の目標と評価規準

単元の目標

○古文の優れた表現や文体の特徴に着目しながら，作品を読み進める。 【読むア】

○歴史的背景などに注意して古文を読み，作者のものの見方や考え方を捉える。

【伝国ア（ア）】

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none">・芭蕉の生きた時代に目を向け，音読や暗唱，読み取りに積極的に取り組み，生き方や作品の価値について考えようとしている。	<ul style="list-style-type: none">・教科書の語注を参考に意味をおさえ，俳文独特の省略の多い表現や表現技法，引用文（本歌取りの手法）に注意して内容を読み取り，作者のものの見方や考え方を捉えている。・作者の価値観・人生観を捉え，手紙形式で表現している。	<ul style="list-style-type: none">・漢文調の簡潔でリズムカルな文体や，対句表現，縁語・掛詞の効果などについて理解している。・歴史的背景などに注意して読んだり，古典の一節を引用した文章を書いたりして，古典の世界に親しんでいる。

6 指導と評価の計画

全7時間 (本時は6/7)

次	学習内容(時数)	主な学習内容			資質・能力の評価	
		関	読	言		評価規準
一	<ul style="list-style-type: none"> 作品について知る。 「芭蕉になり切って手紙を書く」という単元の見通しと意欲をもつ。課題発見 本文(古文)を音読し、内容を理解する。情報の収集 俳句と地の文との関係を考え、芭蕉の生き方、人生観を捉える。整理・分析 (4) 	○		◎	<ul style="list-style-type: none"> 芭蕉の生きた時代に目を向け、音読や暗唱、読み取りに積極的に取り組み、生き方や作品の価値について考えようとしている。 漢文調の簡潔でリズムカルな文体や、対句表現、縁語・掛詞の効果などについて理解している。 教科書の語注を参考に意味をおさえ、俳文独特の省略の多い表現や表現技法、引用文(本歌取りの手法)に注意して内容を読み取り、作者のもの見方や考え方を捉えている。 	将来に通用する基礎学力 <ul style="list-style-type: none"> 社会科の歴史学習、「平家物語」「春望」「俳句の世界」の学習をもとに、作品の内容を読み取ろうとしているか。 資料集や書籍を活用し、必要な情報を収集・整理できているか。 〔観察、ワークシート〕
二	<ul style="list-style-type: none"> 手紙の形式とリライトについて確認する。 芭蕉になったつもりで「平泉」の部分を手紙に書き換える。創造・表現 手紙を読み合い、返事を書く。表現 芭蕉にとっての「おくのほそ道」について考える。まとめ・振り返り (3) <p>【本時2/3】</p>	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> 作者の価値観・人生観を捉え、手紙形式で表現している。 歴史的背景などに注意して読んだり、古典の一節を引用した文章を書いたりして、古典の世界に親しんでいる。 芭蕉の生きた時代に目を向け、生き方について考えようとしている。 	課題発見・解決力 <ul style="list-style-type: none"> 手紙の書き方とリライトの学習を生かして課題に組み込み、適切に表現しているか。 〔観察、手紙作品、ワークシート〕 	

7 本単元において育成しようとする資質・能力との係わり

【知識】

将来に通用する基礎学力

- ・既習事項や既に持っている知識と単元で学習する知識とを関連付け、「おくのほそ道」における作者の見方・考え方を捉える。
- ・資料集や書籍を活用して，必要な情報を収集・整理する力を身につける。

【スキル】

課題発見・解決力

- ・既存の知識・情報と新たな知識・情報を統合して，作者の価値観・人生観を自分の言葉で書き換え，表現する力を身につける。

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・「平泉」の場面のリライトを読み合い，芭蕉の価値観・人生観に迫る。

(2) 観点別評価規準

◎読むこと【エ】

○[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]ア伝統的な言語文化に関する事項

- (イ) 古典の一節を引用するなどして，古典に関する簡単な文章を書くこと。

(3) 準備物： 掲示用モデル文，ワークシート

(4) 学習の展開（6時間目／全7時間）

	学習活動	指導上の留意事項(■)及び評価(●) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)
導入	1.本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">手紙で芭蕉の考えや思いを伝え合おう。</div>	■前時書いた手紙を回収・点検し，モデル文を選んでおく。 ◆キーワードを思い出させ，書き方についてヒントを与える。

展開	2.モデル文を分析する。分析 <ul style="list-style-type: none"> 条件（手紙の書き方・俳句の引用）を満たしているか。 どこに芭蕉の思いが表れているか。 どう直せばさらによくなるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■条件（手紙の書き方に沿っていること。本文の俳句を引用し、俳句の内容を盛り込んで記述すること。）を再確認する。 ■個人で分析後、グループで話し合わせる。
	3.書いた手紙を推敲する。 分析 創造・表現	<ul style="list-style-type: none"> ●手紙の書き方とリライトの学習を生かして課題に取り組み、地の文や俳句から読み取った内容に沿って適切に表現している。 ◆机間指導で個別のアドバイスをする。
まとめ	4.手紙を読み合い、返事を書く。表現	<ul style="list-style-type: none"> ■江戸で手紙を受け取った芭蕉の友人として、俳句の感想を書かせる。
	5.（時間があれば）手紙と返事を読んで発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ●芭蕉の手紙の要点をつかみ、俳句の内容にふれつつ、返事を書いている。

（５）本時で育成したい資質・能力の評価規準

資質・能力	評価規準
課題解決能力	<p>A：表現も工夫して芭蕉の人間性が感じられる手紙を書き、積極的に交流している。</p> <p>B：地の文や俳句から読み取った内容に沿い、俳句を引用し、キーワードでおさえた内容を取り入れて手紙を書いている。</p> <p>C：手紙を仕上げているが、内容が不十分である。</p>

（９）板書計画

「芭蕉からの手紙」
モデル文

「おくのほそ道」
松尾芭蕉

本時のねらい
手紙で芭蕉の考えや思いを伝え合おう。

「平泉」：一六八九年五月十三日
「時の移るまで涙を落としはべりぬ」
夏草やつはものどもが夢の跡
・藤原氏の栄華
・源義経
・青草、山河
・はかなさ